

仲間づくりで大切なこと

松原市立布忍小学校 6年 可須夢 羽夢都

ぼくは、気持ちを伝えることを大切にしています。布忍小学校の中で一緒に遊んだり、けんかをしたりしながら、気持ちを伝え合って、友だちと仲良くなることができたからです。

五年生のとき、クラス遊びでぼくと他の子の意見が食い違い、ぼくはみんなから離れて一人になっていました。腹が立っていて、なかなか自分の気持ちを言えずにいたときに、一人の友だちが、

「どうしたん？話聞くで。」

と声をかけてくれました。ぼくが説明すると、その友だちは、

「それは、自分もそう思うわ。おれが先生に

言ってきたらか。」

と言ってくれました。その後、先生に入ってもらい、仲直りをすることができました。ぼくは、自分の気持ちをわかってくれる人がいてうれしかったし、とても安心しました。

五年生のときには、こんなこともありました。あるとき、クラスの友だちが、けんかをして教室を飛び出し、なかなか戻って来られませんでした。ぼくが、その子の所へ行き

「大丈夫？いけるか？」

と聞いてみても、その子は少しいらついて、

「大丈夫やって。こっちくんな！」

としか言ってくれません。次の日も、その次の日も、その子に声をかけましたが、自分の気持ちを言ってくれません。それでもぼくは、毎日その子に声をかけ続けました。その子が誰よりも友だちを大切にしていることを知っていたからです。その子は、毎朝、学校に来ると自分から友だちにあいさつをしたり、遊びにさそったりしていました。少し時間はかかりましたが、その子は、少しずつみんなと話せるようになっていきました。

六年生でぼくは、またその子と同じクラスになりました。実は、今一番ぼくと仲のいい友だちがその子です。その子は、ぼくを遊びにさそったり、普段あまり仲のよくない友だちにも自分から話しかけたりしています。自分が知っているその子の優しい顔をたくさん見られるようになって、とても嬉しいです。

六月のヒロシマ修学旅行では、原爆ドームや資料館へ行きました。被爆者からの聞きとりもしました。ぼくは、見学や聞きとりをして、戦争のおそろしさ、ひどさを知りました。心に残った被爆者の言葉は、

「人に暴力をふるわないことや、悪口を言わないことが平和につながる。」

という言葉です。自分の周りでは、まだ時々暴力や悪口になってしまうことがあります。だから、ぼくは、仲間といっしょに、暴力や悪口をなくしていきたいと思います。そして、みんなで安心安全なクラス・学校をつくりたいと思います。